



# 学校だより 11月

横浜市立新井小学校

No. 516

令和3年10月29日

TEL 383-3455

FAX 381-7372

(URL <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/arai/>)

## 時間をかけるところ

副校長 廣瀬 ユミ

すっかり秋らしくなり、いよいよ紅葉シーズンに入ります。私は、一年の中で自然が織りなす紅葉の時期が一番好きです。葉一枚一枚の色合いが、様々な環境の中で生きていた証として見えてくるからです。

同じように、子どもたちも、学校、家庭、地域という環境の中で身に付けてきたことが、個性(=自分らしさ)として見えてくる時期です。そして、自分のよいところも、成長するうえで乗り越えていかなければならない課題も見付かる頃です。

子どもたちの成長に大きく関わる教育活動には、校外学習が挙げられます。1・2年生はよこはま動物園ズーラシア遠足、3年生は川崎民家園などの見学、4・5年生は愛川宿泊体験学習、そして、6年生は日光修学旅行。出会いや関わりを通して、多くのことを学び、自分らしさが見えてきます。

学校内ではどうでしょう。

学校は、4時間目が終わると給食準備に入ります。給食当番が、給食室に行き、食缶などを教室まで運びます。私は給食室前に立って、子どもたちが来るのを待ちます。目が合った時、「こんにちは。」と挨拶をしたいのですが、声を発することができません。それは、コロナ感染症拡大防止対策として密となる給食室前では話をしないという約束があるからです。

子どもも私も困ってしまいました。しばらく、互いに同じことを悩み続けているようでした。一人ひとりが日々考え続けます。「どうすれば挨拶を交わせるだろう。」

正しい答えはありません。私は、子どもたちがどのような行動に出るのか、ずっと待ち続けました。

すると、子どもたちは、声を発する代わりに、会釈をするようになったのです。無意識のうちに考え、自分たちで見付けた答えなのです。中には、立ち止まってから相手の目を見て、一礼をして挨拶を交わす児童もいます。子どもたちは、自分たちで答えを見付け、自分から行動に移したのです。その挨拶の交わり方はどんどん学校中に広まりました。子どもたちが考え、判断し、行動に移したことで新井小流の挨拶が生まれました。

方法を教えることは簡単です。気付かせるには時間がかかります。しかし、時間がかかっても、自分が気付いたことは身に付きます。なぜかという、自分で物事をしっかり考えたうえで、行動に移すからです。これからも、自分のよさを生かして、互いに尊重し合いながら、自分らしさ・新井小らしさを増やして行ってほしいです。

紅葉も時間をかけて素敵な色を醸し出します。子どもたちが成長するうえで、時間をかける必要がある時は、「子どもたちが必ず素敵な答えを見付ける。」ことを信じて、じっくり見守っていることが大切だと感じています。